

| | | | | |
|--|--------------------------------|---------------------|--------|-----------------------------------|
| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
| 子どものうたとゲームⅡ English Songs and Games for Children II | | 1年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 1単位 | 演習 | 選択 | (特になし) | 英語フィールド子ども英語ユニットを履修していない学生は事前に要相談 |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 子どものうたとゲームⅠ、幼稚園・保育英語 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 児童英語 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 堤 裕美子 | 講義棟3階 | 月・火・木・金9～18時（授業時間外） | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 楽しく英語を学習するために効果的な歌やゲームの実施方法を学ぶ。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①英語圏の子ども向けの歌や、子ども英語教育を目的に作られた英語の歌を覚え指導することができるようにする。 ②子どもが英語を身につけるために楽しみながら興じることができるゲームを覚え指導することができるようにする。 ③子どもに歌やゲームを教えるために、教える立場から何を注意して子どもたちをリードすればよいか学び、実践することができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 毎回、テキストに紹介されている歌やゲームを模擬授業の中で実際に行い、遊びを通して学びを伝える効果的な方法を修得します。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①英語の歌やゲームを覚え、教えることができる。 ②学習目標を効果的に伝える授業指導ができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス・概要説明(授業の方針、進め方、評価方法等の説明) | | | |
| 第2回目 | 1. Weather(1) | | | |
| 第3回目 | 1. Weather(2) | | | |
| 第4回目 | 2. Food(1) | | | |
| 第5回目 | 2. Food(2) | | | |
| 第6回目 | 3. Animal(1) | | | |

| | |
|---------|-----------------------|
| 第7回目 | 3. Animal (2) |
| 第8回目 | 4. Event (1) |
| 第9回目 | 4. Event (2) |
| 第10回目 | 5. Others (1) |
| 第11回目 | 5. Others (2) |
| 第12回目 | 6. Song & Story (1) |
| 第13回目 | 6. Song & Story (2) |
| 第14回目 | 7. Story Telling (1) |
| 第15回目 | 7. Story Telling (2) |
| 事前・事後学習 | 授業内で学習した教材や歌は積極的に覚える。 |

成績評価の方法と基準

| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
|------------|-----|---|
| 授業参加態度 | 20% | 授業の雰囲気作りに協力し、自発的に学んで学習成果を高めようとする態度や、英語の発話を積極的に行っているかどうかを評価する。 |
| レポート | 10% | 英語の歌やゲームを覚えるために発音記号を調べたり、歌詞の意味や単語の由来を調べる課題を出すことがある。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | 35% | 毎回、前回学習した歌やゲームの方法を覚えたかどうか小テストによって確認する。 |
| 試験 | 35% | 課題として指定された歌やゲームの発表試験を行う。 |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |

教科書と参考図書

担当者より適宜指示または資料を配布する。

履修上の留意点・ルール

モデルとなるCDをたくさん聞いて歌を覚えることを楽しみ、楽しい授業をリードするための英語表現も同時にたくさん覚えましょう。前期科目の「子どものうたとゲームⅠ」から、自分の得意分野が把握できた場合には、それを一層伸ばす努力をしていきましょう。